

オーディオ実験室収載

アンチスタティックの効果(4) (HP 収載)

1. 始めに

前報(1)に引き続き、CD アンチスタティックの試聴を行います。

2. アンチスタティックの試聴方法

今回は、マランツの SACD プレイヤー SA11-S2 で SACD の音源を再生するときの効果調べます。

CD アンチスタティック (扇型のもの) は SA—11S2 のトレイにセットしました。



再生経路は TruPhase の追加導入(6)と同様であり、音源も TruPhase の追加導入(6)で使用した下記のものを使用します。

WARNER CLASSICS WPCS-13849

フレデリック・ショパン ピアノソナタ第 2 番変ロ短調「葬送」

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン ピアノソナタ第 29 番変ロ長調

「ハンマークラヴィーア」

ベアトリーチェ・ラナ (ピアノ)

WARNER CLASSICS WPCS-13850

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

ピアノソナタ第 11 番・第 8 番・第 14 番

幻想曲ハ短調

ユンディ (ピアノ)

ドイツグラモフォン USGG-9536

アントン・ドボルザーク チェロ協奏曲ロ短調

ロココの主題による変奏曲

ムステイスラフ・ロストロポーヴッチ (チェロ)

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

3, アンチスタティックの試聴結果

試聴は CD アンチスタティックなしの状態でおき、CD アンチスタティックをセットした後に再び試聴します。

SA11-S1 の直近の状態は、TruPhase の追加導入(6)で報告したとおり、バランス出力になっています。1968 年録音のドボルザークのチェロ協奏曲のみ、TruPhaseB で位相反転します。

ショパンのピアノソナタ第 2 番「葬送」は、最新の DSD 録音であり、バランスアウトにしたことで SACD の良さが出ています。CD アンチスタティックをセットしますと、余分な響きがなくなり、一音一音の音像が立ってきます。

モーツァルトのピアノソナタは、これも最新の DSD 録音であり、バランスアウトにしたことで SACD の良さが出ています。CD アンチスタティックをセットしますと余分な響きが後退し、打鍵がクリアになります。

ドボルザークのチェロ協奏曲は、古い録音からの SACD にしたもので、上記 2 つの SACD に比べて音の粗さもありませんが、CD アンチスタティックをセットしますと、音の粗さが後退して SACD らしい滑らかさと緻密な表現が出てきます。

4. まとめ

SA11-S2 における SACD 再生で CD アンチスタティックの効果を確認、SACD のメリットが感じられるようになりました。

以上